

# 令和4年度 学校教育自己診断 [報告]

令和4年10月12日実施

作成日：令和5年1月18日

大阪府立岸和田支援学校

本年度、学校教育自己診断アンケートを  
10月12日に実施しました。

報告では、その結果をグラフにまとめて分析結果  
を掲載しております。

## R4 年度 学校教育自己診断アンケート集計結果と分析

### 1. 【集計結果】

#### ① 教職員

75 名、回答数 75 名、回答率 100%

#### ② 児童生徒（ほぼ代筆）

85 名、回答数 58 名、回答率 68.2%（R3 年度 60%）

#### ③ 保護者

85 名、回答数 60 名、回答率 70.8%（R3 年度 65%）

小学部 39 名中 27 名→69.2%

中学部 24 名中 19 名→79.1%

高等部 22 名中 14 名→63.6%

※ 今年度、保護者の回答率が前年度より高い値を得ることができました。  
アンケートのご協力ありがとうございました。

### 2. 【アンケート項目の集計結果と分析】

#### ① 学校教育自己診断 5 年間比較・・・別紙資料参照

#### ② アンケート項目の分析と検討・・・下記参照、各分掌、委員会にて検討した。

##### ②-1 教職員

項目	分析	検討
4 (楽スタの指導方法について)	評価指標に届かなかったが R3 年度の回答(36%)より高いパーセンテージを出している。(今年度 39%)	引き続き、自立活動専任や自活係を中心に指導方法をレクチャーしていく。
5 (視線入力装置の指導方法について)	評価指標に届かなかったが R3 年度の回答(26%)とほぼ変わっていない。(今年度 25%)	引き続き、自立活動専任や自活係を中心に指導方法をレクチャーしていく。
14 (応用行動学の研修)	新設した項目であり評価指標には届かず設定数値が高かったと分析する。	

②-2 保護者

項目	分析	検討
6 (キャリア教育の推進)	R3 年度より 12%減少しているが、80%以上の理解は得ている。 【わからない】の回答が増加していることも影響しているのではないかと分析する。 また、小、中の保護者が進路に関して触れる機会が少なかったのではないかと分析する。	母体数が少ないので、数値で表すと大幅に減少しているように感じるが人数的には少数である。今年度と同様に取り組みながら様子を見ていきたい。
11 (医療的ケアに関して)	R3 年度より 7%減少している。直近 5 年比較でみると誤差の範囲かもしれない。 【わからない】の回答が 17%となっており過去のデータから【わからない】の回答が多いときは肯定的評価も下がっていることがうかがえる。	今後も安全に配慮しながら児童生徒の実態に即して実施していく。
12 (学校経営計画・学校運営協議会について)	継続して周知していく。	

③ 自由記述(保護者)

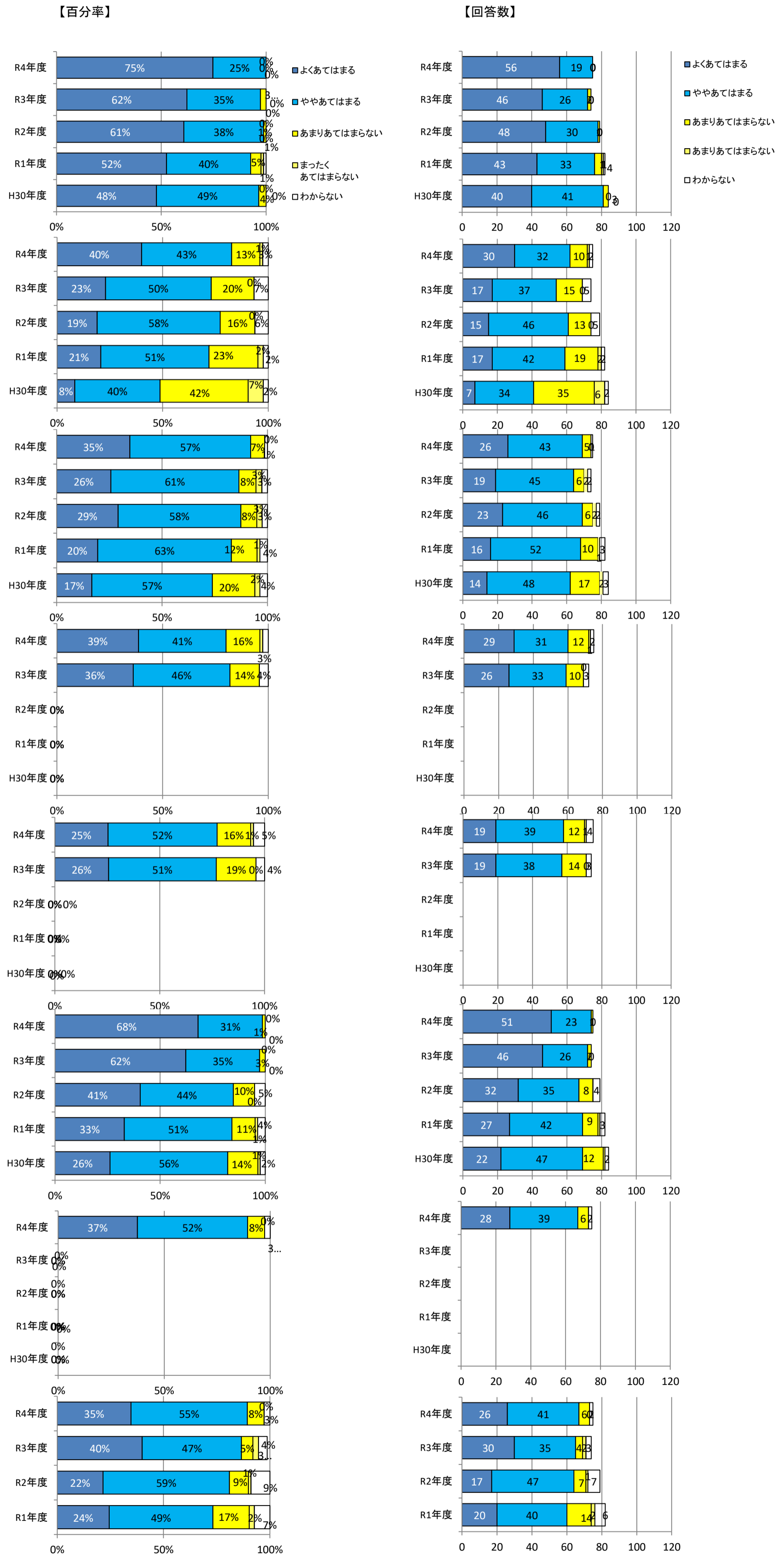
7 件の自由記述がありました。

令和4年度 学校教育自己診断 教職員 5年間比較

作成日 令和5年11月24日

令和4年度	常勤教職員数 = 75	回答数 = 75	回答率 = 100%
令和3年度	常勤教職員数 = 74	回答数 = 74	回答率 = 100%

診断内容
1 本校の教職員は所属以外の児童生徒にも気軽に挨拶をしている。
2 学校は分掌再編をととして業務内容を見直し、精選を進めている。
3 学校は研究授業・公開授業週間を積極的に企画し、授業力向上に取り組んでいる。
4 私は楽スタの指導方法について理解し、効果があると感じている。
5 私は視線入力の指導方法について理解し、効果があると感じている。
6 学校は新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、行事を工夫して実施している。
7 学校は1人1台端末(iPad)を含めたICT機器を効果的に活用している。
8 個別の教育支援計画をもとに個別の指導計画を作成し、実施後速やかに評価して次の指導に活かしていく、PDCAサイクルが、学校として確立できている。

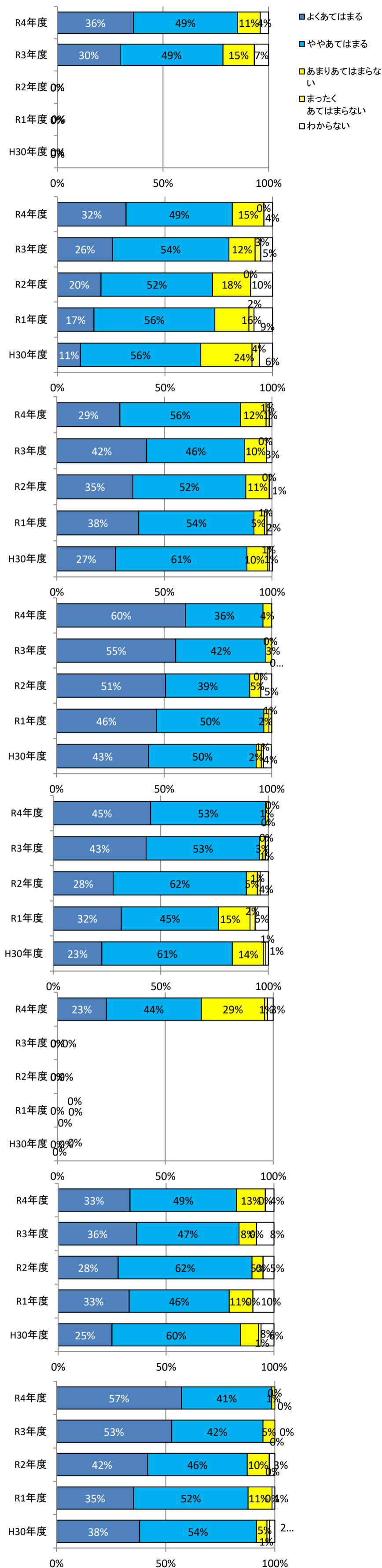


令和4年度 学校教育自己診断 教職員 5年間比較

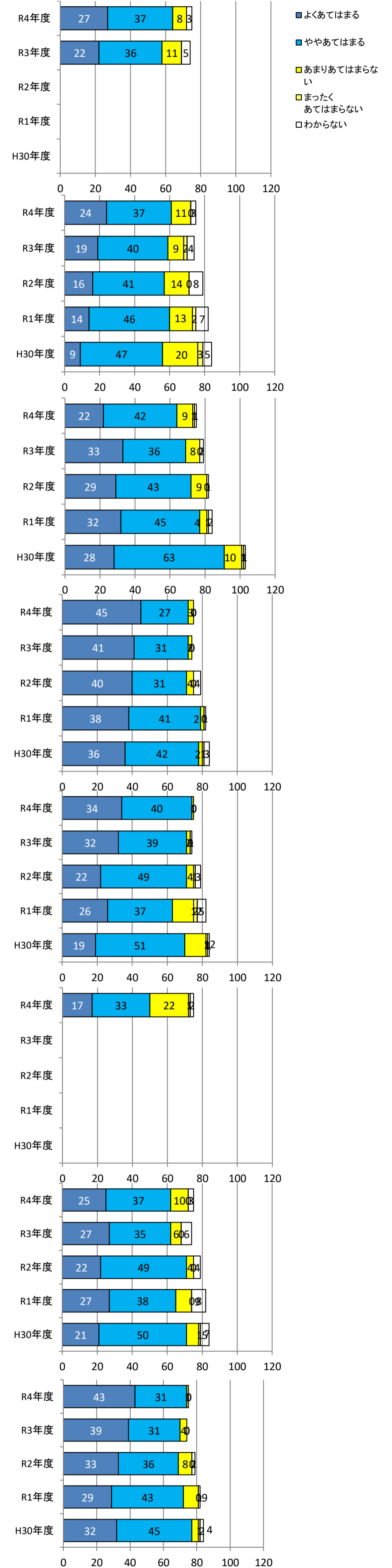
令和4年度	常勤教職員数 = 75	回答数 = 75	回答率 = 100%
令和3年度	常勤教職員数 = 74	回答数 = 74	回答率 = 100%

診断内容
9 私は新学習指導要領に沿った観点別評価を理解して評価を行い、指導につなげている。
10 学校は発達段階に応じて身辺自立に関する指導やソーシャルスキルおよび将来設計など生きる力をつける教育(キャリア教育)の推進ができています。
11 学校はICT機器を活用して業務の効率化を進めている。
12 学校は子どもの体調の急変や怪我、いじめについてもすぐに気がつける体制を整えている。
13 私は肢体不自由支援学校の教員として必要な専門性を持つため、自己研鑽に努めている。
14 私は行動問題解決のための応用行動分析の手法を理解している。
15 学校は進路・生活支援や支援教育に関する情報を保護者に十分に提供している。
16 学校は子どもの人権やプライバシーに十分配慮して指導している。

【百分率】



【回答数】



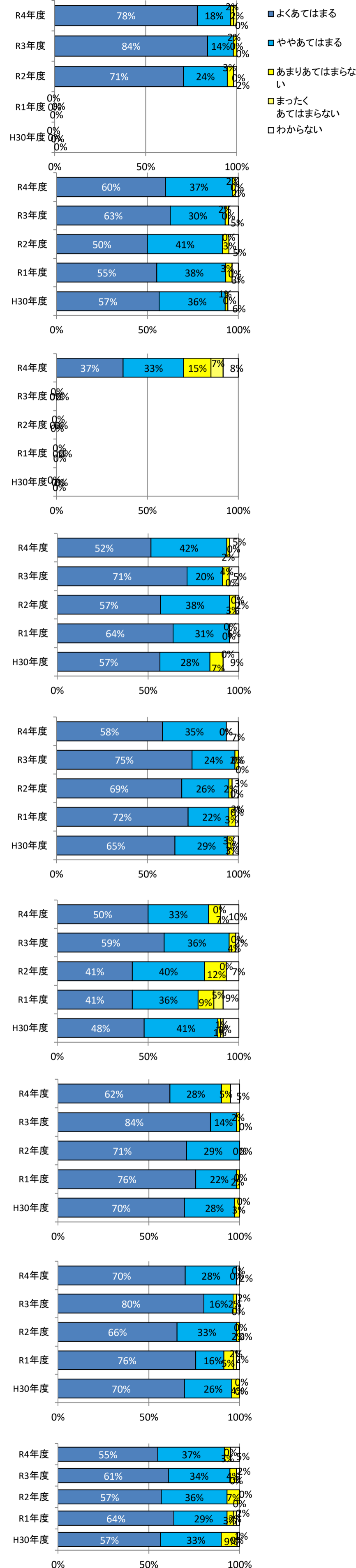
令和4年度学校教育自己診断 保護者 5年間比較

作成日 令和4年11月24日

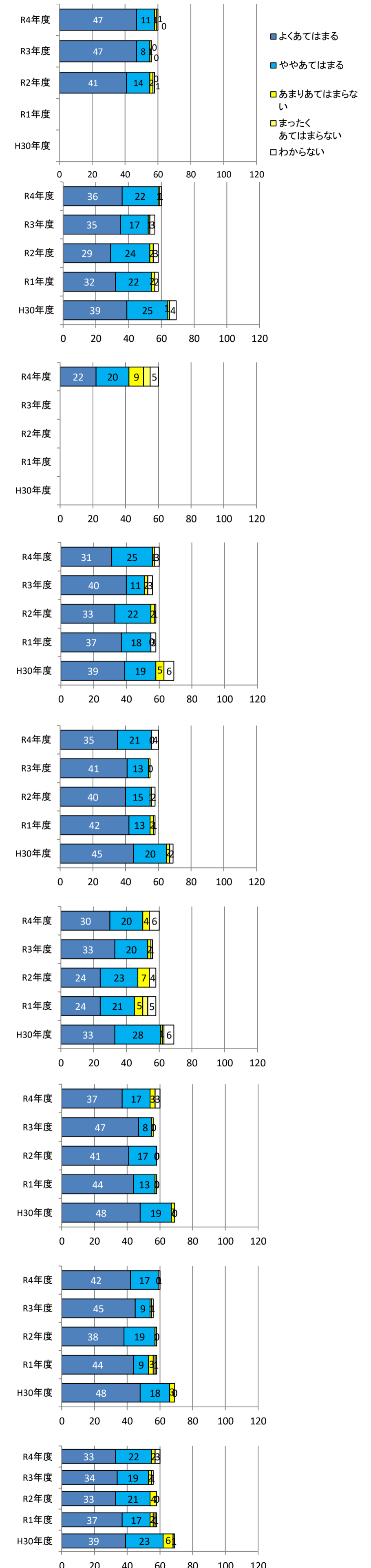
令和4年度 在籍数 = 85	回答数 = 60	回答率 = 71%
令和3年度 在籍数 = 86	回答数 = 56	回答率 = 65%

診断内容
1 子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。
2 子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。(表情から読み取れる。)
3 学校は1人1台端末(iPad)を含めたICT機器を効果的に活用している。
4 学校はあいさつの大切さ、思いやりの心、生命を大切にする心、ルールを守る態度を育てる授業に取り組んでいる。
5 学校は子どもの人権やプライバシーに十分配慮して指導している。
6 発達段階に応じて身辺自立に関する指導やソーシャルスキルおよび将来設計など生きる力をつける教育(キャリア教育)の推進ができています。
7 通知票は支援の手立てや学習の状況(様子)が適切に評価されている。
8 学校は個別の教育支援計画にもとづいて適切な支援を行っている。
9 肢体不自由児の特別支援学校としての十分な専門性がある。

【百分率】



【回答数】







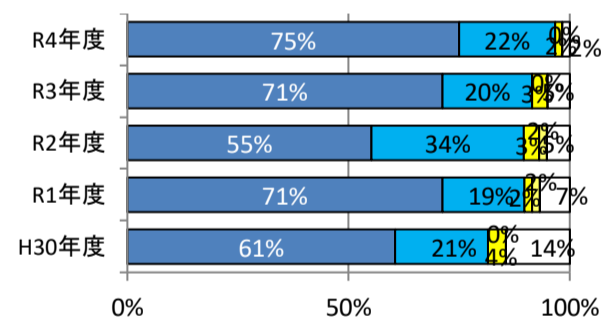
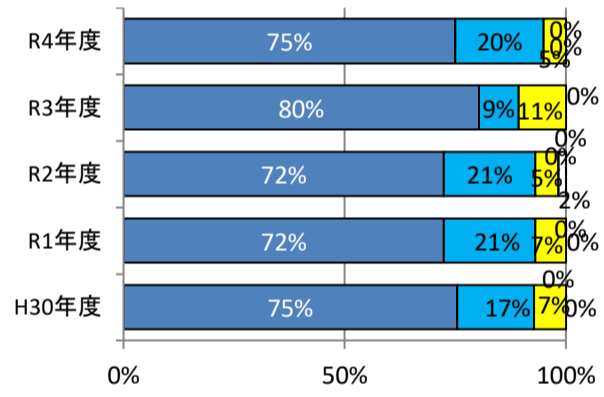
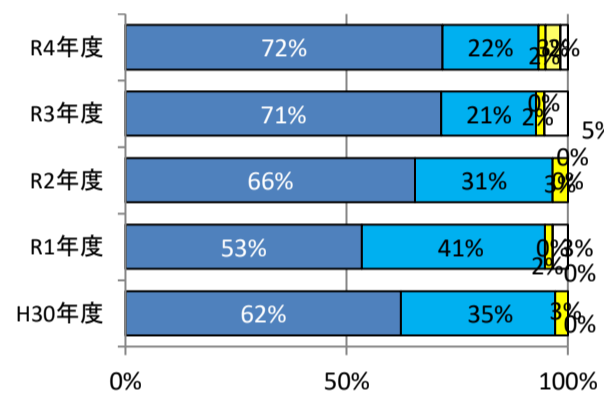
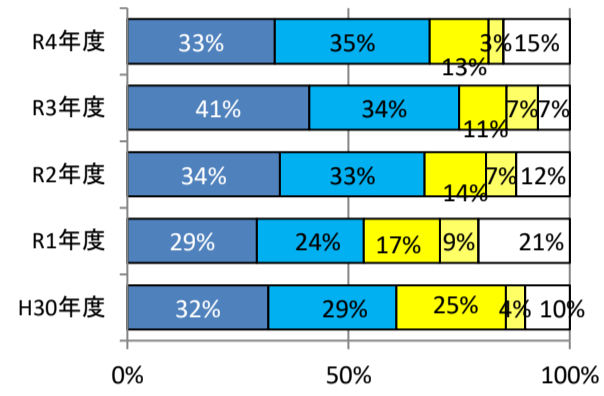
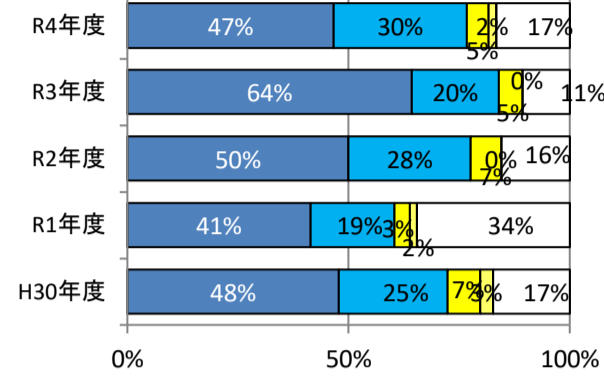
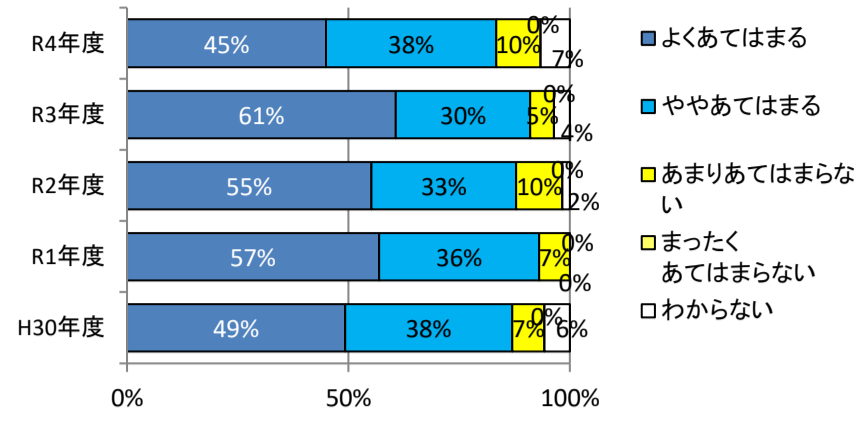
令和4年度学校教育自己診断 保護者 5年間比較

作成日 令和4年11月24日

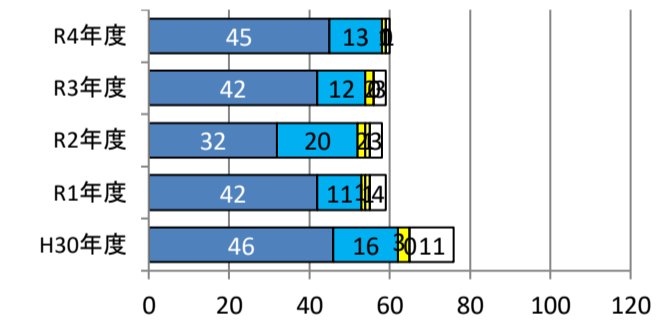
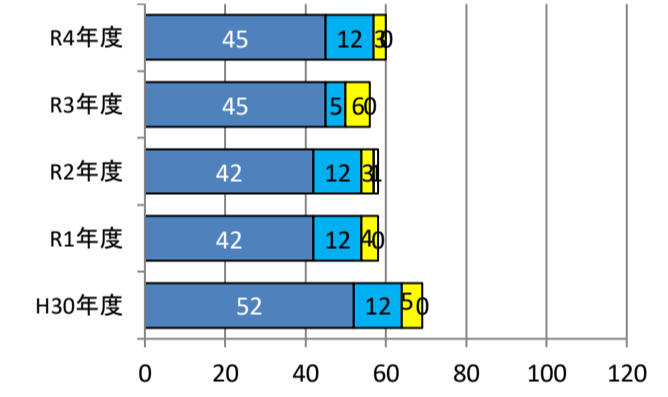
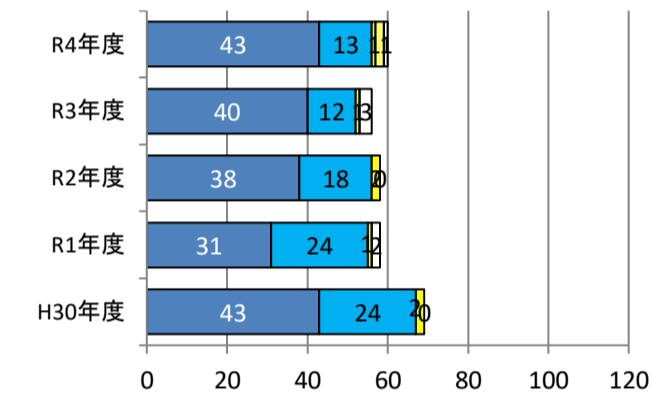
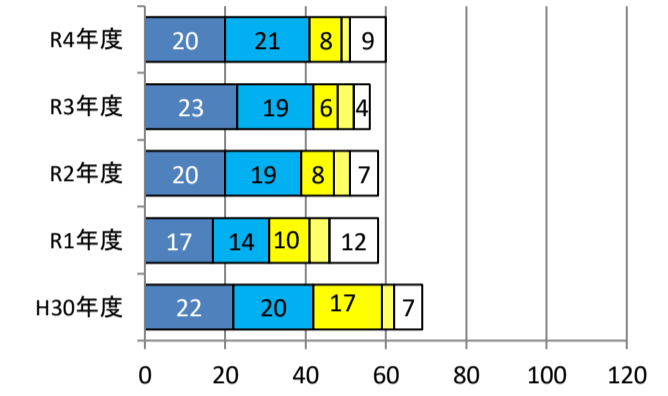
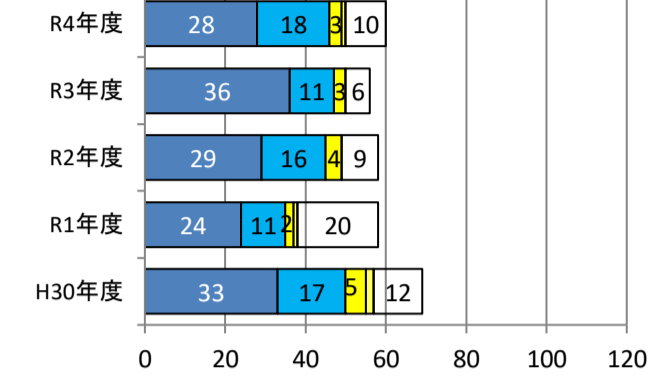
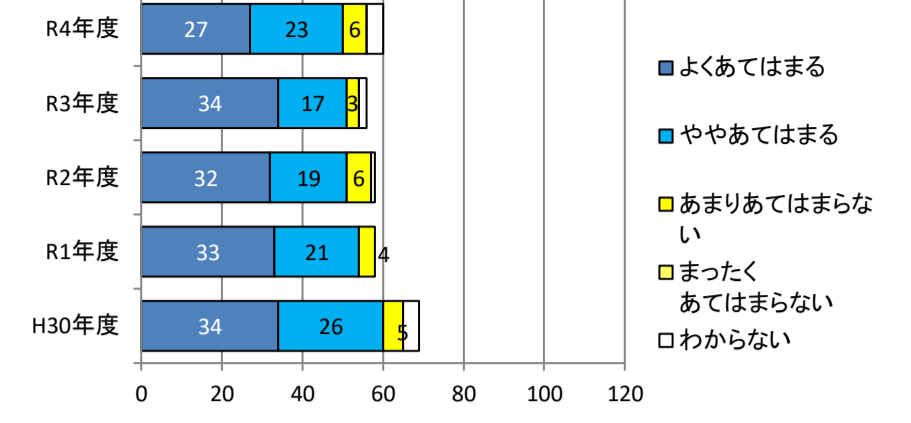
令和4年度 在籍数 = 85	回答数 = 60	回答率 = 71%
令和3年度 在籍数 = 86	回答数 = 56	回答率 = 65%

診断内容
10 学校は進路懇談会や広報誌「やまも」などで将来の進路や生活支援・支援教育に関する情報を適切に提供している。
11 医療的ケアは、子どもの実態に即して適切に実施されている。
12 学校経営計画・学校運営協議会があるのを知っている。
13 学校は新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、授業参観や行事などを行っている。
14 担任、担任以外の先生も気軽に挨拶してくれる。
15 子どものことで悩んだときに、担任・学校と適切に相談できる。(いじめがあったときも同じように相談できる。)

【百分率】



【回答数】



令和4年度 学校教育自己診断 児童生徒 5年間比較

作成日 令和5年11月24日

令和4年度	児童生徒数 = 85	回答数 = 58	回答率 = 68%
令和3年度	児童生徒数 = 86	回答数 = 52	回答率 = 60%

診断内容	
1	学校に行くのが楽しいですか。
2	学習発表会、遠足、修学旅行などの学校行事は楽しいですか。
3	学校に仲のいい友だちがいますか。
4	学校での勉強はわかりますか。
5	先生は私たちの話をよく聞いてくれますか。
6	先生は、私たち一人ひとりに合わせて自立活動をしてれていますか。
7	先生は、いじめも含めて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれますか。
8	学校からiPadを持ち帰って楽しく使えていますか。
9	卒業したあとの生活について具体的に考えていますか。(高等部のみ、お答えください)

